

パームオイルに関する クリーン開発事業



株式会社 リファインウェーブ科学技術研究所

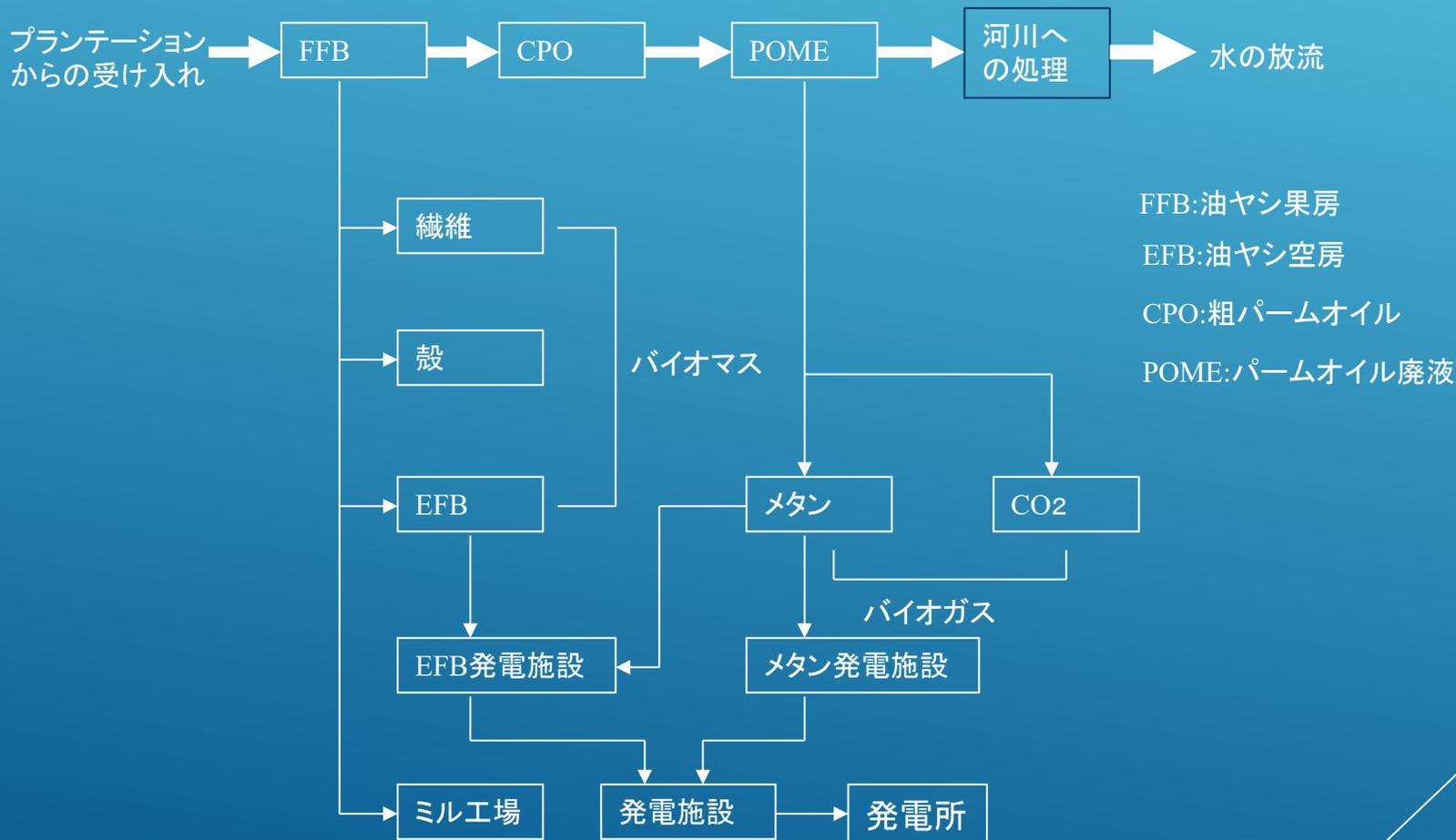
背景

世界最大のパームオイル産油国であるマレーシアの粗パームオイル(CPO)生成工場では、高濃度のパームオイル廃液(POME)から大量のメタンガスが排出されているため、平成13年度には、一般的な粗パームオイル精製工場で、密閉系タンクの設置によるメタンガスの回収やメタン発電による売電を行った場合の事業性の検討、クリーン開発メカニズム(CDM)事業として条件の良いモデル工場を選定し、メタン発電、現在あまり利用されていない油ヤシ空房(EFB)などの固形廃棄物の専焼発電等、実現可能性の高いCDM事業が検討されている。

CDM事業におけるベースライン

CDM事業におけるベースラインは、次の3項目が対象となる。

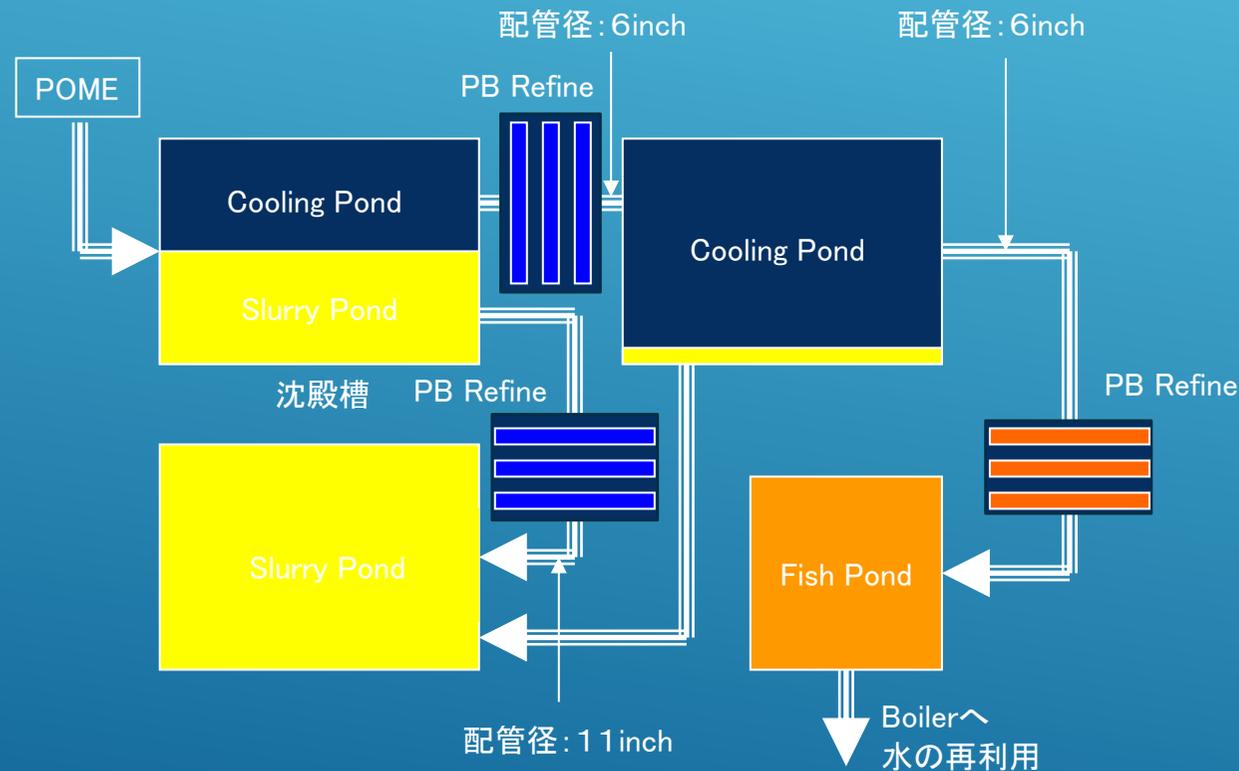
- ①メタン発酵施設の導入がなかった場合のPOMEからのメタンガス発生量の推移
- ②そのメタンガスを利用しなかった場合の発電による化石燃料の排出量の推移
- ③EFBを利用しなかった場合の発電による化石燃料の排出量の推移



河川への処理

POMEの適正処理によって環境負荷の削減ができる

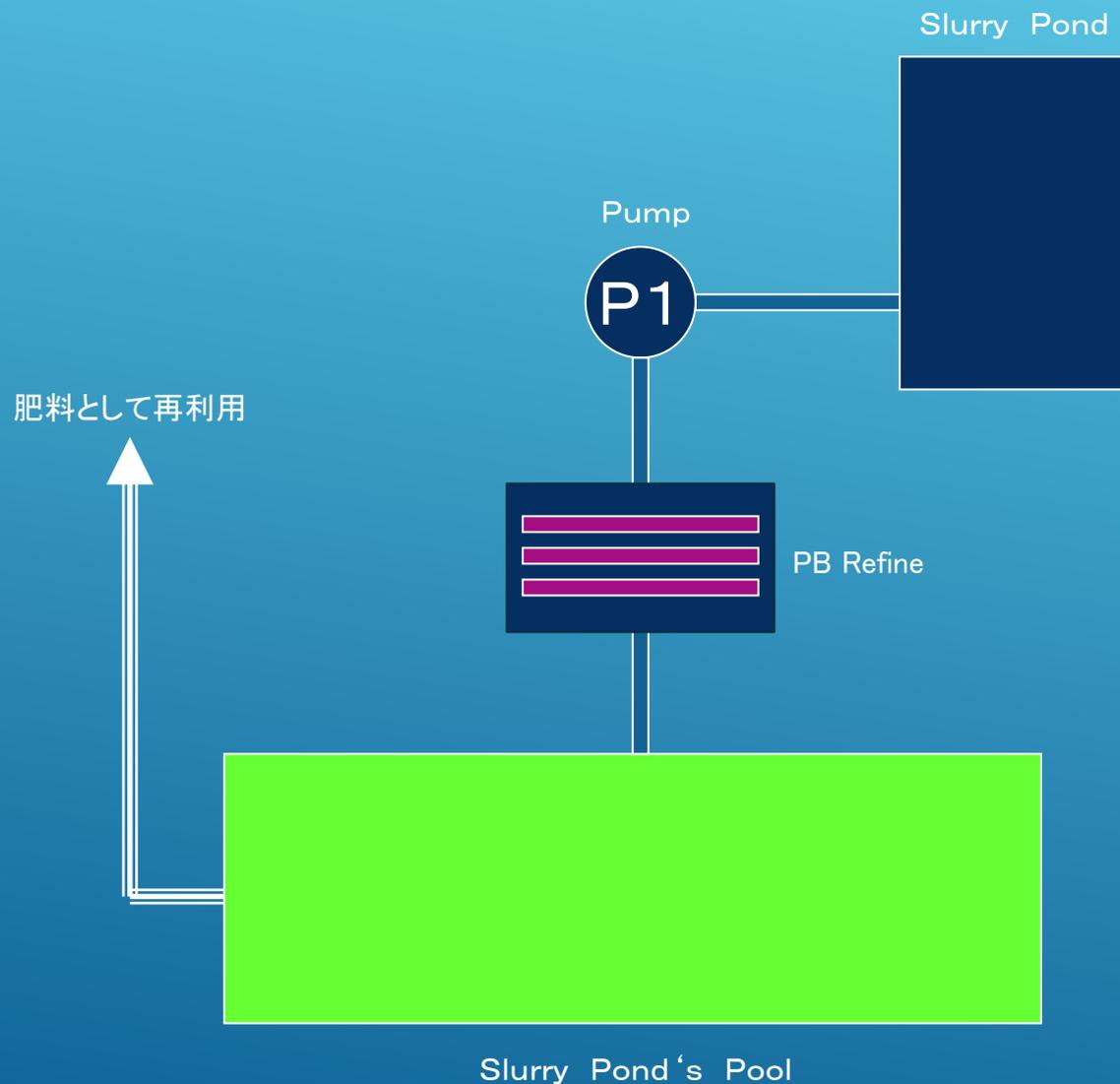
工場から排出されるPOMEは、環境基準(100ppm)を満たしているもの、BODが50ppm以上と高い状態で河川放流されており、さらに臭気もある。今回の事業により、河川放流前にBODおよび臭気を現状よりさらに下げることができる。



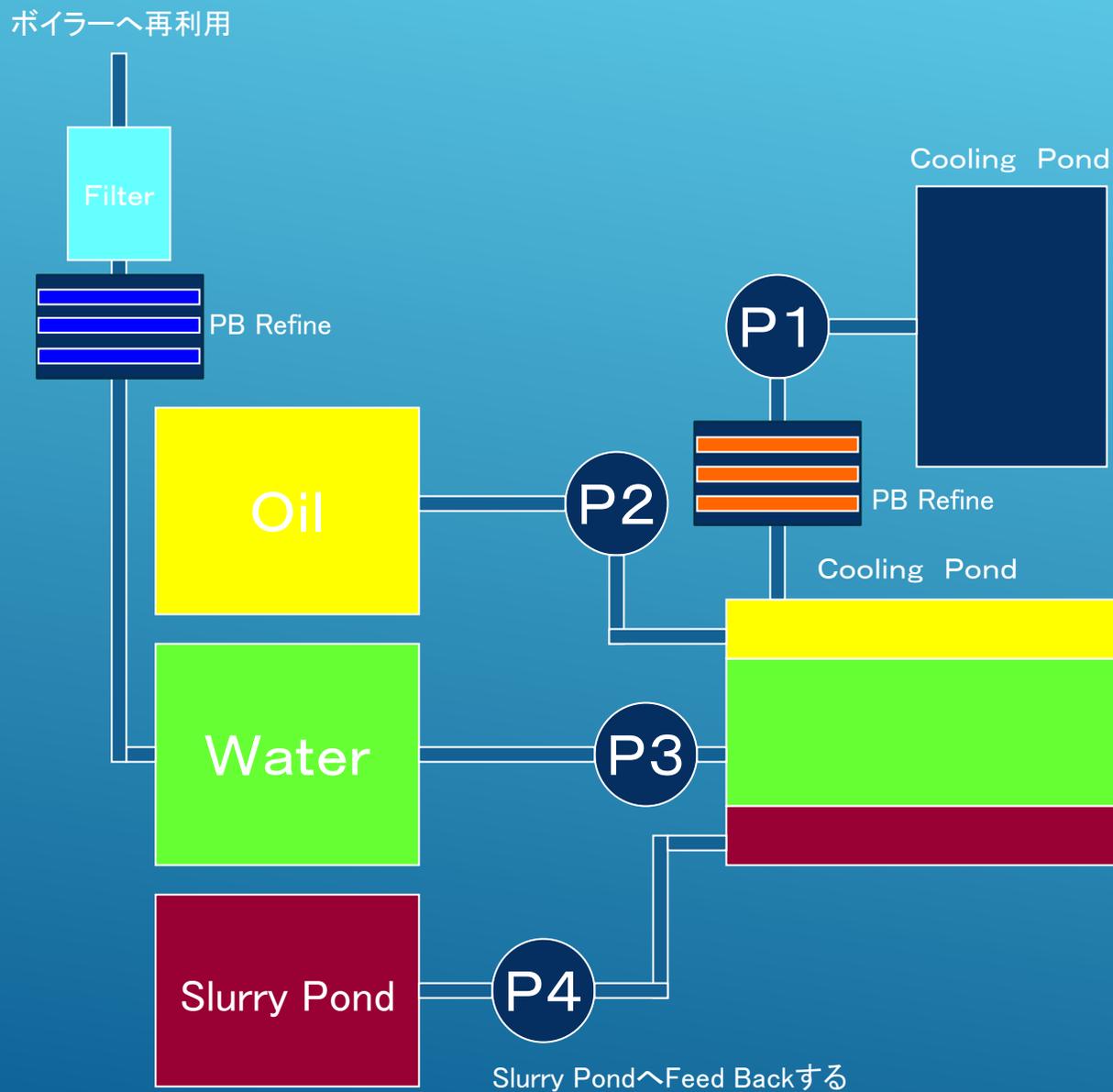
■ ■ : PB Rifineで各々周波数が違う。配管径は、800Aまで臭気だけなら、これだけでかなり下がる。

Slurry Pondの脱臭について

て



Cooling Pondの脱臭および水の再利用について



Slurry PondおよびCooling Pondでの取り付けの詳細図

